

週報 第3310回

会 長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹 事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
T E L 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumitsu-rc.org
ホームページ http://izumitsu-rc.org



今週の例会 (2025年10月17日) 第3310回

■ プログラム

卓話担当 八木 秀富 会員
「美術品市場と絵画」

■ 次週のプログラム

10月24日: ガバナー公式訪問

■ 今後の予定

- ・10月31日: 卓話担当 八木 昌彦 会員
卓話講師 泉大津税務署
署長 大藪 正志 様
「滞納にご注意」

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

手に手つないで

今月の歌

ふるさと

うさぎ追いし かの山
小ぶな釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

■ 先週の例会

会長の時間



杉本 憲一 会長

地車(だんじり)

■特徴

だんじりは櫟(けやき)で作られており、
『大坂夏の陣』など様々な彫物が施されています。

■高さ

約3.8~4メートル。

■重さ

約3.5~4トン。

■長さ

約4~4.5メートル。

■幅

約2.4~2.6メートル。

■鳴物

大太鼓・小太鼓・鉦・笛(篠笛)の4種類

下地車(しもだんじり)

岸和田型とも呼ばれる。大阪府の泉州地域(大阪府南部の海沿いの地域)の地車にこの形が多い。

上地車と比べると大きく重いが、重心が低くやりまわし時の安定度は高い。新調には1億円以上要する。後部にやりまわしや方向転換に使用する後梃子があり、大屋根に鳥衾(とりぶすま)と呼ばれる3本の角がついている。

上地車(かみだんじり)

大阪府泉州地域以外はほとんどがこの上地車である。

一方、上地車はその他の地域にあるだんじりすべてになるので広範囲に存在します。だんじりの文化は関西地方に特に多くあり、各地でいろんな型があります。例を挙げると、住吉型(大佐だんじり)・堺型・大阪型・石川型(仁輪加だんじり)・北河内型・大和型・神戸型・尼崎型・舟型・社殿型・宝塚型などがあります。重量は比較的軽く、上り坂でも進むことができる。ただし、重心が高いためこけやすい。

下地車にある前梃子は無く、周りを「担い棒」と呼ばれる木の梁で囲っているのが特徴。

屋根の正面に獅子囀(鬼熊)がある。上地車にも鳥衾がついていることがある。

なお、摂津、河内、泉州一帯の約900台の地車のうち、7割程度がこの上地車に当たる。

岸和田型地車の起源

天明5年(1785年)、岸和田城下北町の油屋治兵衛という商人が、和泉郡宇多大津村(現・泉大津市)より大型地車を購入したという記録があるが、この地車は城門を潜ることが出来なかったため、岸和田で改良された地車が製作され独自の地車の様式が発展していく。そうして現在の岸和田型の地車が完成された。

この事から南へ下った所でそれまでと違う形のだんじりが出来たそれを下地車と呼び対して従来の形のものを上地車と呼ぶようになったと言う説もある。

また、他にだんじりの起源に関して、1703年に岸和田に三の丸神社が作られたころに始まったという説も有名ですが、堺で始まったという説もあります。

先輩からは大津川を境に北は上だんじり、南は下だん

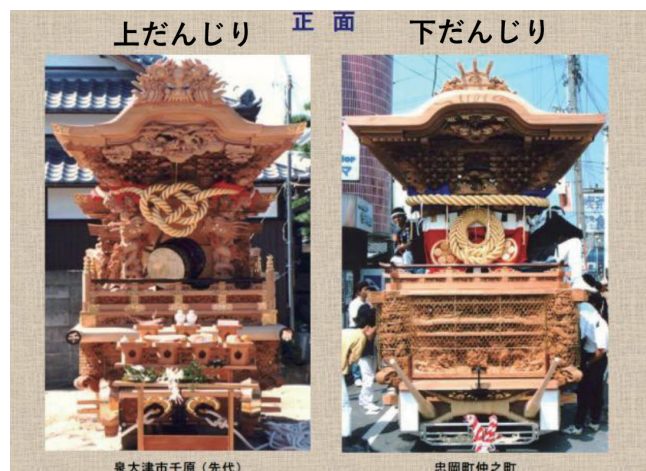
じりであったと教えられました。

泉大津における地車の起源

和泉市の泉井上神社(和泉五総社)で行われていた飯山渡御の古例(742年)に従って穴師神社でも行われた飯ノ山だんじり(御膳だんじり)が始まりとされている。

祭礼における地車の運行は伝染病が流行しないことを祈願する神社の夏祭、或いは五穀豊穰、農・漁業の収穫を感謝し、豊作・豊漁を願う秋祭に曳き出される催しであり、神社・氏子・講・自治会が主体となる世話人・保存会、若中・青年団で運営されてきたものであるが、そうした由来にかかわらず、地元住民の楽しみとしてのイベント色の傾向が強くなりつつある。

時代とともに地車は形を変えていき泉大津の濱八町地区では地車同士をぶつけ合うカチアイが行われるようになった。このカチアイは堺の鳳や津久野、兵庫の宝塚などで、警察が介入するほどの激しいぶつけ合いが各地で行われてきたが、現在は濱八町地区にしか残っていない。



屋根廻り



堺市臨



岸和田市紙屋町

腰廻り



堺市大庭寺



岸和田市紙屋町

側面



堺市深井東町



岸和田市阿間ヶ滝町



上之町

製作年：令和元年
彫刻師：植山工務店
岸和田木彫会／岩崎 努



方 向	上だんじり	下だんじり
正 面	屋根の張り出しが少ない	屋根が張り出している
	屋根の棟と軒の高低差が大きい	屋根の棟と軒の高低差が小さい
	四本柱に柱巻という彫物がある	柱巻はない
	台の幅がせまい（最近では広がっていて、筒柱構造のものもある）	台の幅が広い（筒柱という構造のため）
斜め前方	周りに枠がある	周りに枠がない
屋根廻り	屋根の正面に獅子吻がある	屋根の正面は、鬼板と鳥雲（とりぶすま）
	屋根に筋（かざり）全物がある	屋根に筋り全物がない
	写真の地車には樹組があるが樹組がないものもある	樹組は必ずある
腰廻り	幅が狭く彫物が少ない	幅が広く彫物が多い
	松良はない（半松良が付くものもある）	左右に松良という彫物がある
側 面	擬宝珠勾欄（ぎぼしゅこうらん）で筋金具がある	跳ね勾欄で筋金具はない
	台に彫物がある	台に彫物がない（彫物をしているものもある）
	台の両端が波の形になっている	台はまっすぐ
	大屋根小屋根の高低差が小さい	大屋根小屋根の高低差が大きい
	全長が短い	全長が長い

幹事報告

細川 嘉則 幹事

- 皆様のメールボックスに、10月米山月間資料の「豆辞典」をお配りしています。ご参考にしてください。
- 皆さんのテーブルに、ガバナー月信10月号を置かせていただいておりますので、どうぞお読みください。
- 次週10月10日の例会は、定款第7条第1節の規定により休会になりますので、ご留意ください。
- 10月16日(木)は八谷事務局員がお休みですので、事務局は閉局となります。ご了解ください。
- クールビズにつきましては、すでにLINEでもお伝えしましたが、10月末までは継続することになりました。但し、10月24日の例会は地区ガバナー公式訪問が予定されていますので、男性会員は上着・ネクタイ着用で出席いただきますようお願いいたします。

委員会報告

ロータリーの友10月号の読みどころの紹介。
(森田 真一郎 会報・IT 委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
10/3	32名	8名	—	80.00%
9/19	28名	12名	6名	85.00%

■ メークアップ

榎本(9/26 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
泉谷、南出(9/12 社会奉仕委員会)
松内、瀧谷(9/26 会員増強委員会)
白谷(9/5 理事役員会)

■ ニコニコ箱

- ・本日 今井克範会員、クラブフォーラムよろしくお願い致します（杉本）
- ・本日のクラブフォーラム 今井理事、よろしくお願いいたします（細川）
- ・今井様、本日のクラブフォーラムよろしくお願い致します（川崎）

ニコニコ箱合計	10,000円
累計	207,000円

■ お誕生日

- 西端 政博 会員(3日)
- 森口 和信 会員(13日)



先週のプログラム

クラブフォーラム



今井 克範 社会奉仕部門 担当理事

本年度、社会奉仕部門（地域社会奉仕 青少年（RYLA））理事としてクラブフォーラムをさせていただきます、今井克範です。委員会は、委員長、私、今井、副委員長、泉谷会員、委員、釜野会員、渡辺会員、森口会員、南出会員、中田会員、西田会員、岡本会員で活動しております。

今年度は、今年どのような姿勢で社会奉仕に取り組み、どのような具体の一步を積み上げていくのか、共有させてください。本年度の合言葉は、国際ロータリーの年度テーマに呼応した「Unite for Good—よいことのために手をとりあおう」です。これはスローガンではなく、私たちの日常のふるまいそのものです。自分の都合より先に相手の益を考え、善意を単発で終わらせず、継続性と実効性のある“仕組み”に高めていく。そんなロータリアンの矜持を、地域の現場で具体の一步を踏み出す一年にしたいと思います。

ロータリークラブの存在は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである、とされています。

クラブフォーラムは、会員一人ひとりが「奉仕の理想を個人生活、事業生活、社会生活に適用する」ことを奨励し、

実践への道筋を示す重要な場です。ですから、地域社会奉仕、青少年奉仕のそれぞれにおいて、具体的なテーマを示し、その内容について討論することが本筋とされていますが、今日は具体的なテーマに対して、ロータリアンが個人として、事業生活、社会生活の中で、どのように社会奉仕を実践していけるかを共有する場としたいと思います。具体的には、地域の健康問題。地域の環境問題。地域の高齢者や子どもたちへの支援活動。地域の文化振興活動。についてです。

まず地域社会奉仕は、すべてのロータリアンが、地域の人びとの暮らしを豊かにし、より良い社会づくりに貢献することです。「自分よりまず人のために行動する」というロータリーの精神を最も社会生活で実践できる機会です。しかし現代の地域課題は複雑で、ひとつの団体の努力だけで解けるものではありません。だからこそ私たちは、行政・住民・企業・教育機関と手を携え、会員、地域住民、そして次世代リーダーが“ともに善いことを成し遂げる場”を絶えず生み出していく必要があります。その場では、ロータリアンが先導しながらも、自治体、他の団体、教育機関、などが問題の解決を推進していける様、引っ張りながらも後押しするような立場で、協働していくことが望ましいと考えます。どうでしょうか。

そして青少年奉仕は、ローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）、ロータリー青少年交換などを通じて、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援することです。とあります。私たち泉大津ロータリークラブの周りにはローターアクト、インターアクトなどが身近でなく、ライラなどの養成プログラムを実施することも現実的には厳しいので、子どもたちへの支援活動や、リーダーシップ能力を伸ばせるよう支援することをどのように考え実践できるかを共有したいと思います。

まず私たちが取り組む地域としての泉大津が向き合っている焦点は主に大きく四つと考えました。健康寿命の延伸と介護予防、青少年の健全育成と挑戦機会、つながりと居場所の再生、そして環境・防災力の底上げです。これらは互いに絡み合い、重なり合う課題に対して、どのような考えで私たちが実践し、感じ、伝播させることができるのか、考えましょう。

この前提の上で、今年度の活動基本方針を改めて言葉にいたします。社会奉仕は、ロータリアンが一人ひとりの行動として地域への貢献を具体化できる環境づくりです。2025-26 年度テーマ「Unite for Good」という羅針盤のもと、行政・住民・企業・教育機関と手を取り合い、持続可能で安心に暮らせる地域づくりに貢献できるよう、私たち会員と地域住民、次世代リーダーが“ともに善いことを成し遂げる”場を創出する——これを一貫した共通項として進めていきます。

では、五つの活動計画を順に共有いたします。第一は、地域行政が抱える課題である介護予防、健康寿命延伸を支えるため、市の実施する保健事業に参加し、地域高齢者との交流を通して健康意識の醸成と啓発を活動として行います。

介護予防と健康寿命延伸のための行政連携です。これは、今年度ロータリー財団委員会で申請した地区補助金を活用した「口腔機能測定器の導入による泉大津市口腔保健事業への支援プロジェクト」は、まだ承認おいてませんので地区補助金事業としては未定ですが、この事業申請を機会と捉えて、泉大津市の高齢介護課と連携がとれましたので、社会奉仕部門のひとつの活動とすることとしました。

泉大津市は、高齢介護課が継続事業として行なっている口腔保健事業を本年度も開催します。泉大津市が実施する「お口と栄養の健康出前講座」等において口腔保健事業の一環として、測定機器で口腔機能の見える化とケアへの意識向上を行っています。泉大津市の取組に対し、口腔機能測定機器（健口くん）の更新を行って、口腔ケアの習慣化と介護予防の普及に寄与する事を考えています。この測定機器が導入される1 月ごろを目処に、市の実施する口腔保健事業に参加し、口腔機能の見える化を通した理解と介護予防の意義を自覚し、参加者との交流から更に多くの参加促進を図るため、地域の啓発としてロータリアンが各自活動していくことを計画します。

先だって、卓話において渡辺歯科医師からのオーラルフレイルについて、口腔ケアの重要性、必要性について学びましたが、日頃のケアが一人ひとりにとって大切なこと、これを習慣として定着させるためにも、ケアの現場を体験したり、実践行動に結びつく活動が必要と認識しましたので、この委員会で計画したいと考えました。

地域社会に対しては、口腔保健事業の一環である測定機器の更新導入により、更なる客観的データをもとにした口腔ケア支援が可能となり、参加者の自立的な健康管理意識を促進します。これは介護予防や医療費の抑制に繋がりと、地域における健康づくりの基盤として、継続的な社会的価値を生み出すものと考えます。これが、第一の活動です。皆さんの一人ひとりの自覚と行動を促したいと思い、この場で共有させて頂きました。

第二は、青少年の健全育成と、若者が主体的に社会課題に取り組む機会を創出するための考える場を設け、地域における次世代リーダーが育つ土壌づくりを教育関係者と共に実践します。本来、ロータリークラブのプログラムである、ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）などを開催できればと思うのですが、これは今後の検討として、今年度は創立70 周年の記念事業として、泉大津の公立中学校に向けて映画上映会を行います。「心の傷を癒すということ」を来年1月15日にテクスピア大阪で中学校の生徒たちを対象にして上映します。この映画は、阪神・淡路大震災の被災者の心のケアに尽力した実在の精神科医・安克昌氏の著書を原案にした映画です。キーワードは、人権、ケア、道徳、防災、医療福祉と様々な観点がありますが、この映画を通して子どもたちが自分たちの未来を考えたときに何を学ぶことが良いのか、先生たちと議論し、事前学習を行おうとしています。では、その事前学習の中心は何が良いかと考えた時に、人としてよりよく生きるための「道徳性」を育むことにあるのではないかと思います。これには、自己の生き方を考え、主体的に判断し行動する力を養い、他者と共によりよく生きるための「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てるという主旨があります。生命の尊さや友情、協力、公德心、感謝といった様々な道徳的価値を理解し、それを基に自分自身を見つめ、多角的に考えることで、実生活で直面する道徳的な問題に主体的に対応できる力を身につけるきっかけにしたいと考えています。これが、ロータリークラブの目指す、若い世代が持つリーダーシップの資質を伸ばし、地域社会に貢献できるリーダーを育成することにつながるのではないかと考えます。どうでしょうか。

第三は、献血の推進です。泉大津献血推進協議会と協力し、献血活動を行います。毎年の継続事業となっていますので、今年度も来年2月に献血事業を実施する予定です。献血活動への協力については、昨年同様協賛品についてはクラブ予算で行っていくこととして進めていく予定です。社会奉仕部門の予算から今年度も、協賛金・委員会開催費等からの予算を献血活動の協賛品として支出させていただく予定です。献血活動は、昨年同様市役所で行い、午前10 時から午後4 時半頃までで実施いたします。皆さんにはその6 時間半程の間、参加できる時間を

作って頂き、出来るだけ1 時間以上のご参加により、献血に来られた方への協賛品のお渡し等にご協力を頂きたいと思ひます。ご案内は来年にはなるかと思ひますが、日程については決まり次第共有させていただきます。

この献血事業に協力することで、地域社会への意義を考えますと、医療の安定につながる事、地域の健康を支える活動である事、相互扶助と博愛精神による自発的な行為を掘り起こす事、若者層の社会への啓発活動の参加意義への気づきを与えることなどが考えられます。皆さんは、献血活動を通じて改めて地域社会への意義、ロータリアンとしての活動の意味を問うてみてください。

第四は、環境保存や港湾美化啓発運動（清掃）を継続します。活動としては、港湾美化啓発運動の協力です。泉大津市が主体となって、港湾美化清掃運動を毎年行っています。各種団体が参加しともに清掃して、当クラブも参加します。毎年5 月末の最終日曜、もしくは6 月の第一週の日曜日に行い、今年度は6月1日の日曜日になると思ひますが、朝8 時に泉大津の小松緑道広場（泉大津円形スケートパーク）に集合し、1 時間程度、清掃を行います。毎年20 名程度参加されていますので今年度もご参加どうぞよろしくお願いいたします。

たかだか1 時間程度の清掃ではありますが、たかが清掃されど清掃ということで、参加することで意識は高まりますし、公共の場にゴミがあることでの環境保全への啓発につながり、ゴミひとつ拾うことが、日頃からの環境美化活動へのきっかけづくりにもなると思ひます。そして、クラブの仲間と共有体験をすることにより、ロータリアンとしての自覚をもった地域への社会奉仕活動の貢献へと繋がる狙いもあると考えます。全国的なゴミゼロ運動の期間に、清潔になる清々しい体験と公共の場をみんなできれいにしようという美化意識を地域へ広めていくことが、防災や犯罪抑止、地域の誇りへ帰属する基盤になっていくのではないのでしょうか。

第五は、青少年委員会活動として地域の諸団体と協力して、泉大津市主催のダンスイベントや泉大津市の子ども食堂等に協賛・後援協力を継続活動します。ダンスイベントへの協賛ですが、今年度も開催される見込みですので、昨年同様の泉大津Dance & Marche（ダンス&マルシェ）に協賛金拠出と後援協力を行う予定です。

こども食堂への寄付ですが、昨年度は泉大津市を通じて、数カ所のこども食堂に金芽米を寄贈しました。ただ、今年度は米の価格高騰と昨年寄贈した金芽米の流通に不安もあり、寄付を行うものの、物品の提供等での検討を委員会にて行なっていきます。現在泉大津市内には10 カ所ほどのこども食堂があり、それぞれのこども食堂に行きわたることを想定して進めていきたいと思ひます。

これまで五つの活動計画について共有させて頂きました。

ここで、今一度ロータリアンであることの存在価値を考えてみる機会にしたいと思ひます。ロータリークラブの5大奉仕について、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、国際奉仕とあるわけですが、日頃から職業人として地域社会に貢献できる奉仕は、職業奉仕と社会奉仕ではないかと考えています。また、社会奉仕は社会責務であるとされています。皆さんはどう考えていますか。

ロータリークラブの四つのテストは、「真実かどうか」「みんなに公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」という簡明な言葉で書いてありますが、とても奥深い意味がありそうです。なかなか抽象的なので、日頃の行動、活動にどう照らし合わせることができるのか、なかなか分かりにくいとも実感しています。ここには、私自身ポイントとして思うことは、何かをする時の行動する瞬間、行動によってしか照らし合わせられないということだと考えます。だから、私たちは行動するしかないのだとも思うのです。行動から気づきを得ていきましょう。どうでしょうか。

最後に、社会奉仕について、もうひとつだけ言わせてください。奉仕は、ロータリークラブ、ロータリアンの特権ではありません。特別な人が特別なときにする特別な行いではありません。日常の小さな時間と小さな労力を、誰かのために差し出す、その積み重ねだと思ひます。ひとつのゴミ拾い、ちょっとした後片付け、ちょっとした声がけ。それらの一つひとつが、どこかの誰かの今日を支え、明日の勇気を生み、やがて地域の“安心して暮らせる”力を底上げします。私たちは、奉仕を伝播する連鎖の火種になることが求められているのではないのでしょうか。これは、かなりロータリアンとして先見事項だと思ひます。だからこそ、「Unite for Good—よいことのために手を取りあおう」。一人の行動は周りの行動を変える。ともにやりましょう。まずやってみる。そして続けてみる。大きくやるより、小さく始める。そして、独りで抱えず、手を取り合う。それが、私たちの善意が仕組みになり、仕組みが文化になるのではないのでしょうか。皆さんはどう考えますか。どういう一歩を進めますか。今日は、社会奉仕部門の委員会としての活動計画の共有とともに、一人ひとりの考えが行動に変わるには、という観点でクラブフォーラムをさせていただきました。

今年度、「よいことのために手を取りあおう」を合言葉に地域社会へより良い貢献ができるよう、積極的に内外に働きかけ、持続的な地域となり得る土壌づくりをロータリアンが考え行動できる1年としていきます。泉大津ロータリークラブ会員全員が社会奉仕に対して考え、自覚し、貢献できる地域社会の一員になるべく、皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。